

## バードショーに使用する鳥類の飼料管理について

○坂上 舞

(よこはま動物園ズーラシア)

よこはま動物園ズーラシアでは2013年のサバンナー部オープンに伴い、サバンナエリアでバードショーを実施している。バードショーは午前と午後の1日2回、雨天や強風の日以外は毎日行っている。バードショーで使用する鳥はフクロウ(1羽)、ミミズク(2羽)、ワシ(1羽)、タカ(2羽)、ジサイチョウ(1羽)、インコ(4羽)の全11羽である。鳥たちの飼料管理は通常の飼育管理とは違い、鳥の体重とフライト反応を見て毎日給餌を決定する。そのため、季節による温度の変化、鳥の換羽時期、トレーニングの状況など様々な理由で給餌が変わる。そこで2013年から現在まで行っている飼料管理や給餌内容等について報告する。

当園で使用している飼料は猛禽類にはウズラと馬肉、インコにはラウディブッシュ(ペレット)、ひまわりの種である。サプリメントは猛禽類にはペップフォーム、カルシウム、ゼノビタンを使用し、インコにはレッドパームオイルを使用している。

飼料管理は給餌量をコントロールすることが体重のコントロールにつながりとても重要である。バードショーに使用するため、毎日フライトできる体重を維持する必要があり、体重は前年度の同じ時期の体重、肉色、前日のフライト反応、代謝などを考慮し決めている。季節ごとの給餌はどの個体も冬季に多く(体温維持のため代謝が上がる)、夏季は少ない。また、当園では換羽時期にフライトしながらの換羽となるため、フライト反応を維持しつつ肉類の量を増量し正常な換羽が出来るように管理している。お客様が多く確実にショーを行う土日祝日においては、ワシ、タカは前日、フクロウ、ミミズクは2日前に肉類の量を減量し体重コントロールを行っている。

このように様々な条件を考慮しながら管理するため、2014年の冬に給餌管理の失敗によるフクロウの死亡も起きている。冬にはフライト反応が悪くても夜間のエネルギーを補えるだけの十分な給餌をするなど過去の体重コントロールを参考に飼料管理の向上に努めていきたい。